

犬ヶ岳・津民川地域の陸生昆虫

犬ヶ岳・津民川地域の陸生昆虫

犬ヶ岳（標高1131m）は経読岳と英彦山を結ぶ山並の中間にあり、稜線は大分・福岡の県境となっています。急峻で自然林の少ない大分県側に比べ、福岡県側は20年前の伐採時に林道が開設され、九州自然歩道も設けられて親しみやすくなっています。旧来の自然林は稜線部に僅か50～100m幅に帯状に残され、その中を自然遊歩道が通っています。残されたブナの大木も大方は台風で倒れ、厚みや奥行きが欠けた乾燥しやすい林となっています。



写真1. 自然林の少ない山肌を見せる犬ヶ岳

若い枝や葉から樹液を吸うカメムシ類



写真2. セアカツノカメムシ



写真3. エゾツノカメムシ



写真4. エサキモンキツノ
カメムシ

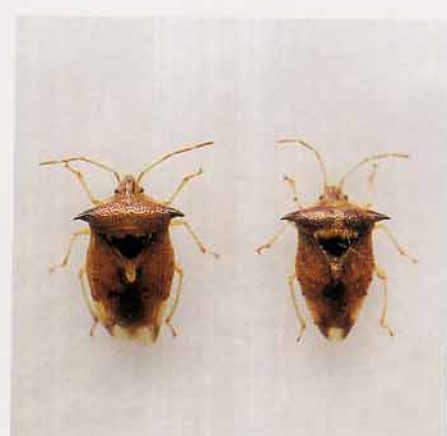


写真5. セグロヒメツノカメムシ

陸生昆虫は全体に貧相で小型種化の傾向が見られ、食葉性の昆虫が若い二次林に帰ってきつつ有るのに対して、樹幹部に食入する種やキノコ類を食べる森林性の昆虫の密度回復は、種子となる昆虫の生息が近く見られないことや、それ等を育む森林環境のないことから、かなり永い年数を要するものと思われます。

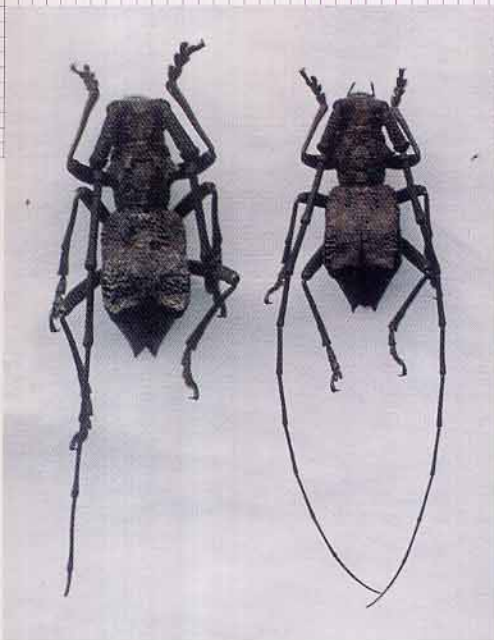


写真6. ブナ類をより所にして
いる
ヒメコブヤハズカミキリ



写真7. 倒れ朽ちたブナの大木

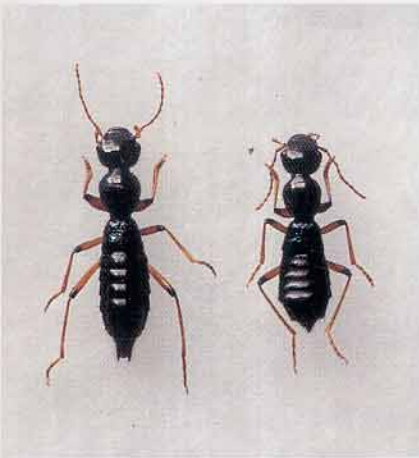


写真8. 県内では珍しい
アリガハネカクシ



写真9. 樹皮下に棲むクロツヤハネカクシと
きのこに寄生するヒメオオキバハネカクシ

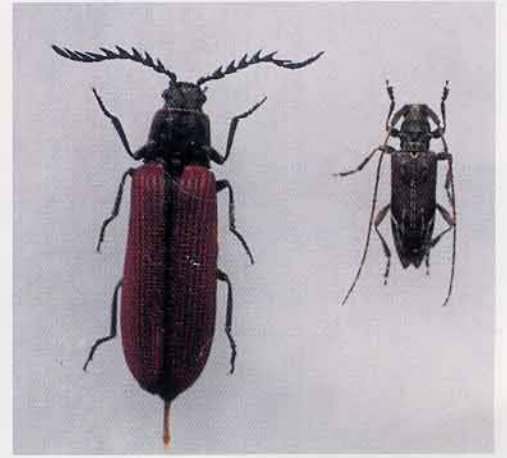


写真10. 落葉広葉樹林帯の表徴種
ニホンベニコメツキと
クモノスモンサビカミキリ



写真11. 木陰に憩うアサギマダラ



写真12. 獣糞に繁殖するらしい
ハタケヤマヒゲボソムシヒキ

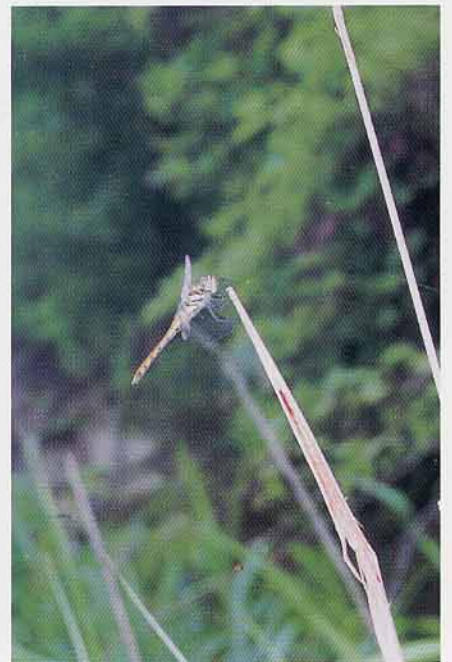


写真13. 低山地に
普通に見られるナツアカネ